

# 教育実習で学生は何を学ぶのか

—学生へのインタビューをSCATで分析して—

附属中等教育学校 今 田 健 蔵

What Do Students Learn from Teaching Practice?

—SCAT Analysis of the Interview with the Student—

Kenzo KONTA

The purpose of this study is to explore what the students learn from their teaching practice. The data was collected from one teacher trainee. The data was analyzed by Steps for Coding Theorization(SCAT). The analysis showed that the trainee recognized the need for continuous learning for the future career and the constant improvement of the lesson as a teacher. The study concludes that there are five things that should be focused on in order to improve the learning of teacher trainees; (1) to include more practical content in the curriculum prior to teacher training, (2) to encourage a feeling of hope for the teaching practice, (3) to control a sense of anxiety for the teaching practice, (4) to encourage active interaction with students, and (5) the active engagement of the teacher trainer to help improve the lessons and their reflections.

## 目 次

- 1 はじめに
    - A 教育実習について
    - B 教育実習における学生の学び
    - C 本研究の着想
  - 2 本研究について
    - A 研究目的
    - B インタビューについて
    - C 研究対象者と筆者との関係
    - D 研究対象者の実習内容
    - E データの分析方法
  - 3 結果と考察
    - A 教育実習を始める前の教育実習に対するイメージについて
    - B 教育実習を始める前にどんな教育を受けてきたか
    - C 教育実習でどんな経験をしたか
    - D 教育実習で学んだことはどんなことだと思うか
    - E ストーリーラインと理論記述
    - F 概念図
  - 4 結論
- 引用文献

## 1 はじめに

本論文は、附属中等教育学校の英語科教育実習における学生の学びを明らかにしようとしたものである。きっかけは、毎年教育実習を担当しているうち、学生は教育実習で何を学んでいるのだろうか、そしてその学びはどのようにして得られているのだろうか、疑問を持ったからである。

### A 教育実習について

そもそも、教育実習とはどんな目的のもと行われるのか。文部科学省（2017）の教職課程コアカリキュラムの「学習指導及び学級経営に関する事項」の中では、次のように説明されている。

一般目標：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標：

- 1）学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
- 2）学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学

習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。

4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わるができる。

以上のように、大学で学んだことなどを活かして実践するための基礎を習得する場として、教育実習を位置づけていることがここからわかる。

ということは、教育実習ではそのような経験をさせて将来教職の場に立つときに自信を持って教えることができるよう指導することが、実習担当教員には期待されていることになる。ところが、教育実習後にそういった指導を受けているにも関わらず、教職課程を辞めている学生の割合は想像よりも多いのが全国的な傾向である。つまり多くの教育実習において、それを経験した学生が教職の道を諦めているきっかけの一つになっていると考えられる。

教育実習における課題の一つに、金谷(1995)でも述べられているが、実習期間の短さがある。2週間ないしは3週間という期間で、学生は学びの機会をどれだけ与えられているのだろうか。この期間で、もし学びの機会が多く与えられているとしたら、それはどんな経験で、どれくらい、何を学んでいるのだろうか。

さらに、母校での教育実習は、近年推奨されていないようである。それは、実習生に対する評価の平等性などの問題があるとのことである。そうした状況の中で、教育学部附属の中学校や高等学校での実習は、将来の学校現場を担う教員を育成する場として、ますますその責任が大きくなりつつある。

## B 教育実習における学生の学び

三枝(2011)は、日本語教育実習を経験した学生の教育実習レポートの分析を行い、教育実習における学生の学びについて研究を行った。結果として、授業準備の大切さや、生徒とコミュニケーションをとることの重要性を認識していることや、「実感」による気づきがあると報告している。

糸井(2014)は、学生は英語科教育実習を経験することで理想とする将来の教師像を持つことになったと同時に、英語運用能力が足りないことを自覚し、英語が話せなくて人前で恥をかいた英語教師像を強く持つようになったと報告している。

猫太(2018)は英語科教育実習後の実習生にインタビューを行い、その内容を考察した。指導教員の指導や助言など積極的な指導介入により、学生は「教師がしたいことを押しつけるのではなく、生徒が興味を持てるか」という生徒を中心にした授業作りを意識するようになり、「力を入れるべき活動に十分なエネルギーを注ぐために、授業の主眼を絞ることの重要性に気づくことができたという経験」をし、「教科書の内容と生徒の世界をつなぎ、教材の魅力を高めることの重要性」について意識するようになったことがわかった。

志村(2012)は教員養成課程に在籍し教育実習を経験した学生と中学校・高等学校の英語教師に質問紙調査を行い、認知の特徴を比較しようとした。その結果、学生は、「英語授業以外での生徒とのコミュニケーションは重要」、「生徒とのよい関係は授業のカギ」、「英語圏の文化を知ることは重要」、「教員は生徒のモデル」、「繰り返し練習することは重要」、「授業で英語を使う」、「すばらしい発音は重要」という7項目が、現役英語教師と比べて、「そう思う」と回答することが多いことが明らかになった。

猪井(2016)は中学校で教育実習を行った5名の学生の教育実習履修簿の記述内容を分析した。その結果、個人差は見られるものの、5名の学生が「時間配分」、「指示の仕方」、「説明の仕方」などの英語科に限ったことではない他教科でも必要とされる基礎的な指導技術についての学んでいたことがわかった。また、生徒との関わりの視点から、教科指導について述べる人が多いことから、生徒を中心にした授業作りを意識するようになったと考えられる。

## C 本研究の着想

以上、先行研究からもわかるように、学生の学びは個人的な要素も絡むことから多岐にわたりそうである。そうはいっても、教育実習を経験することによって、その大小の差はあれど、学生は質的に変容しているのもしかたに事実である。したがって、本研究では附属中等教育学校に実習に来た1名の実習生に着目し、その学生の学びをインタビューの内容から分析する。即座に研究結果を一般化することなどは期待できないものの、今後の附属中等教育学校での実習になんらかの教育的な示唆が得られればよいと考えた。

## 2 本研究について

### A 研究目的

本研究の目的は以下の通りである。

教育実習を通して、学生はどんなことを学んでいるかを明らかにする。

### B インタビューについて

教育実習生に対するインタビューは、教育実習最終日である2022年6月24日（金）の16時から、学校の空き教室で実施した。インタビュー実施時間は約10分間である。インタビューでは、以下の内容について筆者が聞き取った。

- ①教育実習を始める前の教育実習に対するイメージについて
- ②教育実習を始める前にどんな教育を受けてきたか
- ③教育実習でどんな経験をしたか
- ④教育実習で学んだことはどんなことだと思うか

### C 研究対象者と筆者との関係

研究対象者である教育実習生は、東京大学の修士課程在籍の大学院生であり、中学校・高等学校の英語科教員免許を取得しようと実習にやってきた。著者は、その指導教官という関係性であり、担当の授業を観察・指導し、研究対象者である実習生の支援を行う立場にある。

なお、本研究の著者は、東京大学附属中等教育学校の英語科教諭であり、現在赴任して6年目になる。教職経験は10年以上あり、赴任してから教育実習はほぼ

毎年のように担当している。なお、2020年度と2022年度には、東京大学の英語科教育法Ⅲを担当したが、研究対象者とは本実習が初めての顔合わせであった。

### D 研究対象者の実習内容

2022年6月6日から6月24日、東京大学教育学部附属中等教育学校の教育実習で、中学2年生の英語の授業を担当した。また、英語の授業以外にホームルームなどの特別活動、道徳の授業も担当した。英語の授業は3週間で3クラスそれぞれ9コマ程度担当した。

### E データの分析方法

研究手法として、Steps for Coding and Theorization（以下、SCAT分析）を採用した。本手法の利点として、①実施が容易であること、②比較的少ない、小さな質的データの分析に対しても有効である点、③明示的で段階的な分析手続きであること、がある。本研究は、実習を通した学生の変容や成長の調査であるため、個別的で具体的な分析を行う研究手法の一つであるこの研究手法が、この研究には適当であると考えた。おおまかな手順としては、インタビューから得られたテキストをセグメント化し、それぞれに

- <1>テキスト中の注目すべき語句
- <2>テキスト中の注目すべき語句のいいかえ
- <3>テキスト中の語句を説明するテキスト外の概念
- <4>テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）

の順にコードを付していき、<4>のテーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論

番号	発言者	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句のいいかえ	<3>左を説明するようなテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）
1	聴き手	教育実習を始める前に考えていたこと…教育実習についてちょっと教えてほしいんですけど。				
2	実習生	考えて…イメージ…そうですね。あの、もともと、あの東大附属のことは、まああの研究でとか、あのいろんな、あの授業とか見せて頂いてたりとか、あの、指導教員から話を聞いたりとしまして、あの、すごく聞いていたんで、あの、なかなか出来ない、結構その価値観とかが近かったりとかする中で、おそらくその公立の学校とかでは、あのそんなことしないでくださいみたいな言われちゃったりとか、すごく大変だよねっていうふうにも聞くと、まあ一方ですごくこう、やりがいのあることを、ね、あのこういうことをしてくれて嬉しかったとか、こういうことがあったみたいな話もたくさん聞きましたし、また、私自身もその教育実習生が、結構多めのあの付属だったので、なんかそういう時の思い出とかもあって、結構、やりがい、すごく大変だけれども、あのものすごくやりがいもある、っていう感じなんだろうなと思っていて、それめちゃくちゃ思った通りでした、はい。	指導教員からの話、価値観が近かったり。そんなことしないでくださいみたいな言われちゃったりとかもきくとチャレンジさせていたんだらうなあっていうなんかそれがある。温室の中で厳しく育てていただける。	指導教員からの学校の評判。指導に関する考え方。指導方法の制限。実習先での経験と学びへの期待感。	公立学校で実習することの不安感。指導に対する考え方。実習先の評判や噂。公立学校と国立学校の実習の比較。	教育実習校に対する期待と不安。
3	実習生	あとは、そうですね、っていうのがまあ附属への多分イメージで、教育実習のイメージ、まあ教育実習一般としては、そうですね、結構周りの人も教育実習を受けて、あの、教育実習はすごく大変だよねっていうふうにも言われていて、あの、週に、あの、週末は絶対に他に予定を入れないほうがいいよとか、すごく大変だよねっていうふうにも聞くと、まあ一方ですごくこう、やりがいのあることを、ね、あのこういうことをしてくれて嬉しかったとか、こういうことがあったみたいな話もたくさん聞きましたし、また、私自身もその教育実習生が、結構多めのあの付属だったので、なんかそういう時の思い出とかもあって、結構、やりがい、すごく大変だけれども、あのものすごくやりがいもある、っていう感じなんだろうなと思っていて、それめちゃくちゃ思った通りでした、はい。	教育実習はすごく大変。週末は絶対に他の予定を入れない。やりがいのあること。教育実習生が結構多めの付属だったのでなんかそういう思い出	教育実習の多忙さ。教育実習の疲労感。教育実習の価値。教育実習の思い出。	実習終了者からのアドバイス。大学付属であった母校。充実感や学びへの期待。	教育実習に対する期待と不安。

図1 教育実習を始める前の教育実習に対するイメージについて問う質問への回答のSCAT分析

を記述するという手順になる。詳しくは大谷（2007）や大谷（2011）を参照。

### 3 結果と考察

インタビューは大きく4つの質問に対する回答から構成される。以下にそれぞれの結果と考察を示す。

#### A 教育実習を始める前の教育実習に対するイメージについて

教育実習を始める前の教育実習に対するイメージについて問う質問への回答のSCAT分析は図1の通りである。

この分析から、この研究対象者は教育実習校に対する期待と不安を述べていることがわかった。インタビューの中でわかったことだが、本人は教育実習前に、大学の授業の一環で授業見学などをしており、学校のことについて大まかに雰囲気をつかんでおり、そのこともあって実習校を選択した経緯も可能性としてはありそうである。

また、教育実習に対する期待と不安も述べられている。その背景には、過去の教育経験や実習経験者からの話や大学の指導教員の話などが影響していると考え

られる。

#### B 教育実習を始める前にどんな教育を受けてきたか

教育実習を始める前にどんな教育を受けてきたかについて問う質問への回答のSCAT分析は図2の通りである。

この分析から、研究対象者は実習中に役立った知識や技術は何かと問われ、指導目標から逆算して授業を計画すること（以下、バックワードデザイン）や、現場での実践的な知識を、大学院の教職課程の授業である英語科教育法で学んだことが役立ったと述べていることがわかる。

#### C 教育実習でどんな経験をしたか

教育実習でどんな経験をしたかについて問う質問への回答のSCAT分析は図3の通りである。

この分析から、研究対象者は生徒を題材内容へ惹きつけることの重要性を感じていることがわかる。自らの実践を振り返り、今後の課題として認識していることが述べられている。

#### D 教育実習で学んだことはどんなことだと思うか

教育実習で学んだことはどんなことだと思うかにつ

番号	発言者	テキスト	①テキスト中の注目すべき箇所	②テキスト中の箇所の言い換え	③左を説明するようなテキスト外の概念	④テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）
9	実習生	<p>教育法は、あの大学院の授業ではないんですけど、あの一応あのA先生に、私が、あの、学生の時にとりそびれたせいで、あの、奇跡的にA先生にお世話になれてよかったなって、思ったんですけど、はい、それも、あの、ものすごく役に立ちました。</p> <p>例えばその、教科教育法の中でどんなことが実際に授業に役立ったというか、実習で役立ったとか、一番役に立ったと思うのは、その、A先生が教えてくださったのが、あの、バックワードデザインっていう話をすこいされていて、最後にどういう目的があって、なんか、どういう活動生徒にさせたかで、それを見せよう活動して行くのかで、それに向けて生徒に何を話すのかみたいなことなんか考えて、授業を組み立てるんだとか、その授業全体のねらいとか目的とかかいてあって、それをこう使って、それらじゃあ実践でどうやって使えるんだらうっていつて、やっぱりなんかそうですね、教員、それこそあの、あんまりその学校の先生の経験がない方とかだと、あの、理論だけになってしまいうことある。まあ、それはそれで勉強にもなるんですけど、やっぱり、あのなんか役に立つというか直接役に立つという意味では、そうやってその教員の経験があらわれて、そういうこう実践でやあどうできるかな、より具体的に考えさせていただけるとか、それが、すく役に立ったし、あと、授業の、あの、授業案とか、あの、結構、ベアワークとかで組み立てたりとかしたんですけど、それに対してただフィードバックとかも、すく役に立って勉強になって、あの思い出すことがたくさんありました。</p>	バックワードデザイン。授業を組み立てる。授業全体のねらいとか目的の、じゃあ実践でどうやって使えるんだらう。学校の先生の経験がない方だと、理論だけになってしまいうベアワークとかで組み立てたりとかしたんですけど、それに対していただくフィードバック。	指導目標から逆算して授業を計画。学んだ理論を授業で実践。授業に対する有益なアドバイス。	学校目標、教育目標、年間を通じた指導の目標、現場の知恵、教科教育法で学んだこと。	実習中に役立った、教科教育法で学んだ知識や技術。

図2 教育実習を始める前にどんな教育を受けてきたかについて問う質問への回答のSCAT分析

番号	発言者	テキスト	①テキスト中の注目すべき箇所	②テキスト中の箇所の言い換え	③左を説明するようなテキスト外の概念	④テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）
13	実習生	<p>作る中で大変だったことは、やっぱり、その生徒にどういふう教材と出会うてもらうか、なんかそのストーリーをどうつなげていって、それがどう目的にこう繋がっていくかっていう、その一連の流れを考えるとこの自分が教材についてよく分かっていないといけないし、あの、生徒に対して難しい、あの、生徒の目標にも立たないといけないし、が、思ったのと違う答えも当然出る。帰ってきたりとかするなかで、難しいなあと思っておりました。まあ、それに付随して、やっぱりなんかあの、詰め込みすぎてもあったりとか私はすることが多かったのも、もう少しあの、これくらいだったいのを、なんか考えなきゃいけなかったなと思うところ、そうですね、なんか全てでなんかそこ、その細かいその、ミクロのミスっていうか、これは違うなって思ったところも結構そこ起因すると思うか、なんか生徒がどうそれを授えていて、なんか私がどうしたかったのかっていうところに、どう繋がったのかみたいなのがこう、崩れていくことによつて起きていることが多いのになんていうふうにすごく思いました。はい。</p>	生徒にどういふう教材と出会うてもらうか。一連の流れを考える。自分が教材についてよく分かっていないといけない。生徒の目標にも立たないといけない。詰め込みすぎてもあったりとか私はすることが多かったのも、もう少しあの、これくらいだったいのを、なんか考えなきゃいけなかったなと思うところ、そうですね、なんか全てでなんかそこ、その細かいその、ミクロのミスっていうか、これは違うなって思ったところも結構そこ起因する。	教材の効果的な導入方法。授業の流れを考える。教材研究の必要性を感じる。生徒の授業中の気持ちなどを考える。授業内容を精選する必要性。教員の立ち振る舞い。行動を振り返る。	生徒を題材内容へ惹きつけることの重要性。題材内容をいかに生徒の興味と近づけるか。	実習中の授業で苦労して、今後学ぶ必要性のあること。

図3 教育実習でどんな経験をしたかについて問う質問への回答のSCAT分析



番号	発言者	テキスト	①テキスト中の注目すべき箇所	②テキスト中の箇所の言い換え	③左を説明するようなテキスト外の概念	④テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)
15	実習生	まあ正直に、楽しかったなあ、よかったなあ、ありがとうかな一つという、結構ポジティブな気持ちが大きくて、ただ、なんか、あのすごく、自分の授業になんて言うんでしょう、あーこれができなかったとか、あれができなかったかなとか、もっとこうしたいなとか、あのものはやーから考え直したい、穴があつた入りたみたいないな気持ちを、すごいあたりととして、悔しいなあとか、なんかもっとこうできたらよかったな一つ思うんですけど、なんかそれは、ずっとなんか永遠と持ち続けておくべき感覚でもあったりするだろうし、なんかそうですね、あのこの経験をさせて頂けたことと自分が本当に、ありがたいし楽しかったし、やっぱり生徒が楽しかったよって、すごいやってれたことも嬉しかったです、なんかよかったなって、正直に、よかったなしか言っていないですけど、本当にそう思っています。	楽しかったなあ、よかったなあ、ありがとうかな一つという、結構ポジティブな気持ちで、自分の授業になんて言うんでしょう、あーこれができなかったとか、あれができなかったかなとか、もっとこうしたいなとか、あのものはやーから考え直したい、穴があつた入りたみたいないな気持ちを、すごいあたりととして、悔しいなあとか、なんかもっとこうできたらよかったな一つ思うんですけど、なんかそれは、ずっとなんか永遠と持ち続けておくべき感覚でもあったりする。	教育実習に対する肯定的な感想、教育実習中の失敗と後悔、この経験を忘れないようにしたい。	成功体験、自己の経験を振り返る、授業をよりよく、改善していく態度。	成功体験から、教職への希望。
16	聴き手	はい、ありがとうございます。えっと、じゃあ最後なんですけど、これからまあ、教員になる、なりたいたいと思ってることなので、この教育実習終わって、これからの課題について自分の中でどんなことだと思えますか。				
17	実習生	課題…おそらく、実際に教員になるとなると、えー、できることと、わかることって、できることって、実際にこうできるようになることとか、今回はこう夢見がちというか、あの本当にやりたいことを、自由にやらせていただけたけれども、じゃ実際にこう生徒が、できるようになることとか、ちゃんと習得できることとかも、考えてあの言語活動と、あの、えっと、言語活動と何でつけたか、急にでなかった、言語活動と、メモがある、学習活動というところを、細かく組み立て、こう、組み合わせながら、その、自分の事を表現してもらいたという気持ち、私はすごく大きいんですけど、それも実現しながら、でも、じゃあ、その表現をできるようにしたい文法とか、あの、語彙とかを身につけていくっていうことを、もともとちゃんと考えなきゃいけないことだっていうことが、実際に働く上ですごく思っていることで、で、まあそれをするにあたってやっぱり、その、生徒の立場に立つこととか、ストーリーを組み立てていくこととか、あの、それからその場の、やっぱりその先生としての、その授業のその場の立ち振る舞いとあって、きっと、その、すぐ身につくものではなくて、その教師の、あの、専門性として、多分その、身体的に、経験的に身につけていくものだと思うので、なんかそういう事はずっと学び続けていきたいなと思っております。	夢見がちというか、あの本当にやりたいことを、自由にやらせていただけたけれども、じゃ実際にこう生徒が、できるようになることとか、ちゃんと習得できることとかも、考えてあの言語活動と、あの、えっと、言語活動と何でつけたか、急にでなかった、言語活動と、メモがある、学習活動というところを、細かく組み立て、こう、組み合わせながら、その、自分の事を表現してもらいたという気持ち、私はすごく大きいんですけど、それも実現しながら、でも、じゃあ、その表現をできるようにしたい文法とか、あの、語彙とかを身につけていくっていうことを、もともとちゃんと考えなきゃいけないことだっていうことが、実際に働く上ですごく思っていることで、で、まあそれをするにあたってやっぱり、その、生徒の立場に立つこととか、ストーリーを組み立てていくこととか、あの、それからその場の、やっぱりその先生としての、その授業のその場の立ち振る舞いとあって、きっと、その、すぐ身につくものではなくて、その教師の、あの、専門性として、多分その、身体的に、経験的に身につけていくものだと思うので、なんかそういう事はずっと学び続けていきたいなと思っております。	教育実習中の授業を計画する上での自由度、生徒の自己表現力の指導の必要性、コミュニケーションを支える文法と語彙の指導の必要性、今後の課題として認識。	理想と実際にやってみた際の課題の認識、生徒の実態にあわせた指導法、今後の自らの課題を把握。	失敗を経験して、改善を目指していく態度。

図 4 教育実習で学んだことはどんなことだと思うかについて問う質問への回答のSCAT分析

いて問う質問への回答のSCAT分析は図4の通りである。

この分析から、研究対象者は教育実習を全体的に振り返って、成功体験と失敗体験の両方を述べてつも、教育職へ就くことの希望を述べていることがわかる。さらに、失敗経験を肯定的に捉えることも可能であると認知を変容させつつあり、そういった失敗から自らの課題を設定し改善していく態度の重要性について感じていることがわかる。

## E ストーリーラインと理論記述

以下に、本分析を通じて得られたストーリーラインと理論記述について図5に示す。

この研究対象者は、実習前にバックワードデザインという概念について知っていたおかげで、目標に沿った指導・授業内容を意識することができ、授業がうまくいったかどうかについての判断がしやすくなった。また、その結果、授業の改善点を認識できるようになり、それらに集中的に取り組むことができるようになった。そのような、授業を改善していく態度を持ち

続けることの重要性にも気づくことができた。

## F 概念図

以上のストーリーラインと理論記述をふまえ、概念図を作成した。それを図6に示す。

## 4 結論

本研究の目的は、教育実習を通して、学生はどんなことを学んでいるかを明らかにするにすることであった。そのために、附属中学校で教育実習を行った1名の学生へインタビューを行い、そのデータの分析・考察をした。

SCAT分析により、学生は実習中に自らが抱えている課題を把握することができたと思われる。また、教員として学び続ける態度や授業を改善していく態度の重要性に気づくことができた。さらに、教育職へ就くことへの動機を強めることができたと考えられる。そしてそれは、教育実習前に学んだ知識であるバックワードデザインという概念の理解と、教育実習に対す

ストーリーライン	この学生は、公立学校で実習することへの不安感や、国立学校での実習の学びへの期待から、本校にて実習をすることを決めた。一般的な教育実習に対するイメージは、他の実習終了者から聞いていたとおり、非常に大変なもので、実際にやってみたらやはりそのとおりであったが、非常に充実した経験を送ることができた。実習をする前に教科教育法で学んだ知識や技術、例えばバックワードデザインという概念の理解が、実習の場で活かされる場面もあったが、実際に授業を行ってみるとまぐいかな場面も多く、大変苦労した。特に、実際の生徒の実態にあわせた授業内容や指導目標の設定、教員としての授業中の一つ一つの行動に関しては、今後の課題として認識している。生徒と交流することなど、様々な経験を通して、教員として学び続ける態度や、授業を改善していく態度が必要であることも認識することができた。この学生は、教育実習を通して、様々な経験の中で、自らの課題をより明確に把握することができた。教育職に将来的に就く際にはこの経験が、本人にとって大きな影響を及ぼすと考えられる。
理論記述	・教育実習前において、バックワードデザインという概念を学生が知ってから実習を迎えることにより、授業目標を設定してから授業を行うようになり、結果的に授業の改善点をより認識しやすくなる可能性がある。 ・授業の改善点を認識し、教育実習という一定期間、授業の経験を積み重ね、それらを改善していくという経験が、学生の学び続ける態度をさらに強化することにつながる可能性がある。
さらに追究すべき点・課題	・バックワードデザインという概念の理解度 ・改善していくという過程はどのようなものであったか

図 5 本分析を通じて得られたストーリーラインと理論記述

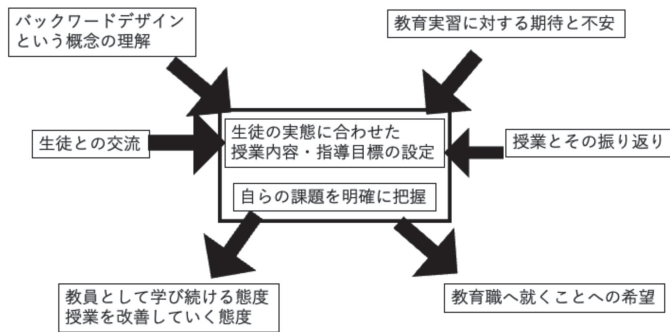


図6 SCATによるストーリーラインの概念図

る期待と不安が関係していると思われる。また、生徒との交流や、授業とその振り返りを通して、それらは、生徒の実態に合わせた授業内容・指導目標の設定と自らの課題を明確に把握することに影響を及ぼしていると考えられる。これらの関係性を図6によって表している。

過去の研究との共通点としては、まず「生徒との交流」という概念があげられる。三枝(2011)、志村(2012)でも、学生は生徒とのコミュニケーションが重要であると感じたと報告している。また、実習を通して将来の教師像を強めたとする糸井(2014)の報告があるが、本分析でも同様の傾向がある。さらに本分析では、学生は生徒の実態に合わせた授業内容や指導目標の重要性を感じておりとしたが、それは猫太(2018)による報告と一致する点である。

過去の研究と本研究の相違点は、実習生が教員として学び続ける態度と授業を絶えず改善していく態度の必要性を強く認識した点である。この違いに関係しているのは、教育実習前の知識としてバックワードデザインという概念の理解が関係していると思われる。

本研究から、教育実習前の学びで何が実習生にとって影響するのかのヒントが得られたと思われる。特に、教育実習というのは短期間で質の高い実習が求められる。その効果を高めるためには、本研究から次のことが学生の学びのためには重要ではないかと考えられる。

- ①実習前の英語科教育法の内容に実践的なものをさらに入れること
- ②教育実習への期待感を高めること
- ③教育実習への不安感を抑えること

- ④生徒との積極的な交流を推奨すること
- ⑤授業とその振り返りに指導教員が積極的に関わること

なお、本研究は1名の実習生からのデータに限って分析をしており、結果の解釈は限定的なものであることを認識している。さらに、1名のデータはおよそ10分間のインタビューからであり、データ量も少ないものである。したがって結果の一般化は現実的には不可能であるし、そもそもそこまでを目的としていなかった。

ただ、以上のような反省点も踏まえると、複数のデータから比較分析したり、インタビュー内容を充実させるなど、多くの課題は残っているが、本研究が附属学校での教育実習の関係者にとって少しでも示唆あるものになれば幸いである。

## 引用文献

- 大谷尚.(2007). 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案：着しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 教育科学, 54(2), 27-44.
- 大谷尚.(2011). SCAT: Steps for Coding and Theorization. 感性工学, 10, 155-160.
- 糸井江美.(2014). 英語科教育実習生の可能自己：物語られる自己教師像. 小学校英語教育学会誌, 14(01), 115-130.
- 猪井新一.(2016). 英語選修の学生は教育実習で何を学んでいるのか：教育実習履修簿の記述から見てくるもの. 茨城大学教育実践研究 茨城大学教育学部附属教育実践総合センター 編, (35), 179-192.
- 金谷憲.(1995). 英語教師論英語教師の能力・役割を科学する. 東京：河源社.
- 三枝優子.(2011). 日本語教育実習での学び：教育実習レポートの分

析から. 言語と文化, 23, 50-63.

志村昭暢. (2012). 教員養成課程の大学生と中学校・高等学校英語教師の言語教師認知の比較研究. JACET言語教師認知研究会研究集録, 15-28.

猫田和明. (2018). 英語科教育実習生はどのような経験をしているのか：実習生の語りによる質的研究. 教育実践総合センター研究紀要, (45), 1-10.

文部科学省. (2017). 教職課程コアカリキュラム. 文部科学省 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会.